

（在日中国語系留学生の収入源とメンタルヘルス状態との関連性研究）にご協力いただいた方へ

東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野・精神看護学分野では、（研究課題名）を実施しています。

【研究課題】

在日中国語系留学生の収入源とメンタルヘルス状態との関連性研究(11225)

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学大学院医学系研究科・精神保健学教室
研究責任者 川上憲人・東京大学精神保健学教室・教授
担当業務 データ解析

【共同研究機関】

該当なし

【研究期間】

承認後 5 年間

【対象となる方】

2016年8月1日～2016年9月30日の間に、東京にある各大学における中国語系留学生の方で、基本的な日本語能力がある方で、ウェブ調査票に回答した方。

【研究の意義】

外国人留学生は、近年大幅に増加している。外国人留学生は留学する前よりソーシャルサポートを受けることが少なくなり、異文化への適応、研究や他者との交流の際の語学能力、経済的な自立問題など、多くの問題に直面する可能性がある。そのために、留学生にはうつ症状や自殺関連行動などのメンタルヘルス上の問題がしばしばみられると言われている。他国への留学生のメンタルヘルスに一番影響を与える要因は「異文化適応」とされているが、在日外国人留学生に対して一番影響を与える要因は「経済的な問題」とされている。「経済的な問題」の中でも、「奨学金が受けられない」、「親の送金が大変」など「収入源」に関することは一番大きな理由と言われる。さらに経済問題のある留学生は抑うつ症状などメンタルヘルス上の問題でリスクを持っている可能性がある。

日本政府が発表した「留学生 30 万人計画」によると、来日留学生の人数は毎年大幅に増加している。しかし、奨学金を受けられる留学生は必ずしも増加して

いない。私費留学生の人数は今よりも増加すると考えられる。日本で行われた先行研究は異文化適応とソーシャルサポートに関する研究が多く、収入源に関する研究はほとんどない。したがって、収入源とメンタルヘルスとの関連性を明らかにすることが必要と考えた。

【研究の目的】

本研究では在日留学生としてその数が一番多い中国語系留学生を対象として、収入源とメンタルヘルスとの関連性を明らかにすることを目的とする。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。

- ・研究デザイン：自記式ウェブ調査票による横断調査

- ・データ収集方法：本研究では、東京にある国立、私立大学（4大学予定、東京大学を含む）に在籍している中国語系（中国と台湾）研究生、学部生と大学院生であり、その中でも基本的な日本語読解力のある者を対象とする。これ以外には、対象者選定の基準はない。調査は以下の手順で行う。まず、各大学の中国留学生会と台湾留学生会の会長に対して「調査への協力を求める文書（資料3）」をメールで送付する。留学生会会長は、個人メールアドレスを登録している留学生会員にこの文書をメールで配布する。文書を読んで調査への協力に関心をもった会員は、東京大学精神保健研究室に設置された web サーバーにアクセスし、説明文（資料5）を読んだ後で、調査に同意した留学生のみ web アンケートに回答する。

- ・調査内容：本調査では、在日中国語系留学生を対象として、web 上で調査票への回答を依頼する（資料1）。この調査票は、在日中国語系留学生のメンタルヘルスに関する問診票であり、以下の手順で作成されたものである。

- （1）多くの様々な先行研究において使用されている尺度および質問項目を収集した。この質問の利用について、作成者の許諾を得ているか、または問題ないことを確認している。

- （2）在日中国語系留学生からのヒアリング。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集されるデータ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱います。

電子データはサーバー上のパスワードで管理された研究者個人専用のページからダウンロードし、外付けハードディスクに保存される。サーバー上のデータはこの時点で消去する。保存された回答データは、鍵のかかる研究室内（東京大学医学部3号館S305）のロッカーに施錠のうえ保管し（管理責任者：川上憲人）、その内容を閲覧するためにはパスワード入力を必要とするように設定する。

保管されている回答データは、本研究の研究従事者以外の者にデータを公開・提供することはない。

データの解析は、東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野において実施さ

れる。研究期間終了 5 年後、外付けハードディスクに保存されたデータを消去する。収集されたデータは本研究課題の範囲外、本研究の研究従事者以外は使用しない。以上の方法により、電子データが外部に漏洩する心配がないことを研究参加者に説明する。収集されたデータは統計的に解析され、学術雑誌や学会等で発表する際は、個人名、学校名などは外部に漏れない形で発表することを約束する。

研究結果は全体の結果として論文投稿・学会発表によって研究参加者に開示される。個人の結果は開示しない。

氏名と住所の情報は、謝礼として QUO カードを送付する目的以外では使用しない。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで 2017 年 5 月 29 日までにご連絡ください。ご連絡をいただかなかつた場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

この研究に関する費用は、東京大学大学院医学系研究科・医学精神保健学分野の運営費から支出されています。

本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

研究参加者への謝金支払いは QUO カード 300 円分とする。研究参加者の費用負担は発生しない。

【問い合わせ先】

東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野・精神看護学分野

担当者：蔡 佩穎

住所：東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5841-3364 FAX：03-5841-3392

メールでのお問い合わせ：peiyiing313@gmail.com

※お問い合わせの際には、「オプトアウト」の件でお伝えいただき、1 ページ目の研究課題名と審査番号をお知らせください。